

五島列島紀行(その4) 小値賀島の公営渡船を追う

2021-4-24 池田良穂

下五島の旅客船の撮影を終えて、上五島に移動しました。上五島の島内旅客船としては小値賀島(おぢかじま)および宇久島に3隻の公営渡船がありますが、いずれもまだ会ったことはありませんでした。宇久島は佐世保市に所属しており佐世保市営船「みつしま」が小値賀島との間を、また小値賀島周辺の離島には小値賀町営の「さいかい」と「はまゆう」が運航されています。3隻の時刻表を調べてみると、なんとか半日で撮影はできそうでした。

福江島に2泊した後、野母商船の「太古」で小値賀島に移動しました。博多を深夜に出た「太古」は、五島列島の港に寄港しながら、朝の8時に福江港に入港します。そして折り返し、10時10分に福江港をでて、北上しながら青方(中通島)、小値賀島、宇久島に寄って、夕刻には博多に到着します。何度も乗った航路で、船も素晴らしいのですが、特に若松水道を通過する航海は絶景です。

こうして快晴の中の素晴らしい航海を楽しみながら、福江を出てから約3時間で、13時に小値賀港に到着しました。

前述の3隻の公営渡船のうち、1隻は小値賀港に隣接する笛吹港から、あとの2隻は島の北部にある柳漁港から出港します。予約していた旅館に行って、宿の方に聞くと、島内にはタクシーはなく、バスも1日に数便しかないとのこと。歩くと柳まで1時間以上かかるので、「レンタカーを使っは」という提案をいただきました。すぐに電話をいれてくれて、ものの10分で旅館の前にレンタカーが届きました。「返却は、旅館の前か、島を出るときにフェリーターミナルの駐車場に鍵をつけたまま置いておいてくれればよい」とのことに驚愕しました。さらに車に乗ってみるとナビはなくてまたびっくり。島内地図をスマホに出して、経路を覚えてから出発することになりました。柳まで15分ほどで着き、「みつしま」と「さいかい」の撮影を予定通りに済ませることができました。

翌朝、朝の7時に出港する九州商船の「いのり」に乗船。船は宇久島に寄ってから、佐世保に向い、10時に到着しました。



福江港から、野母商船のカーフェリー「太古」に乗船して、上五島の小値賀島に向かいました。



ブリッジの下の右舷に展望ラウンジがあり、直接オープンデッキにも出ることができます。



インフォメーションカウンターの横には、同船のグッズが展示されて売られていました。



2等室も綺麗でした。ただ、レストランはなく、船内で買えるのは自動販売機のカップ麺と飲み物だけでした。



福江港では、洋上風力設備の建築が行われていました。離島で自然エネルギー発電を大規模に行い、本土に電気を売るという新産業が生まれるかもしれません。また奈留島では潮流発電の実証プラントが建築されていました。



港の外に自衛艦が停泊していました。地元新聞によると、中東に派遣される「あきづき」で、佐世保を出た後、新型コロナのPCR検査を受けて、14日間日本近海に留まった後、中東に向けて出港するのだそうです。



若松水道に入る直前に「Ocean」と反航しました。



「太古」は若松水道を北上します。



若松島と中通島を結ぶ若松大橋の下を通過しました。



青方の洋上石油備蓄基地では、5つの大型のポンツーンに原油が蓄えられています。一部のポンツーンは浮き上がっており、これは原油が消費されたためです。



青方港には「フェリーありかわ」が係留されていました。五島産業汽船が、高速船に加えてカーフェリーの運航を目指して中古船を購入していましたが、倒産で計画は頓挫していました。元沖縄伊平屋村の村営船「フェリーいへや」です。



小値賀島のフェリーターミナルです。結構立派な施設でした。



ここで「太古」を下船。同船は、博多へと出港していきましました。



続いて、佐世保からの九州商船の「シークイーン」が入港してきました。



さらに、九州商船の在来型カーフェリー「いのり」が入港してきました。



隣接する笛吹港に小値賀町営船「はまゆう」が停泊していました。野崎島、六島を回る東航路と、大島に行く2つの西航路に就航しています。



野崎島、六島に向けて笛吹港を出港する「はまゆう」の姿です。



島の北にある柳漁港からは、すぐ沖合の納島に小値賀町営の「さいかい」(右)が、さらに北の宇久島には佐世保市営船「みつしま」(左)が出ています。



「さいかい」は出港して、しばらくすると戻ってきました。FRP製の漁船船型を使って客船にした船のようです。



宇久島からの「みつしま」の入港です。佐世保市営の渡船です。



夜に佐世保から入港した九州商船の「いのり」は、小値賀港で1泊して、翌朝7時に出港します。



朝日を浴びる「いのり」です。



小値賀港のターミナルには、鹿のマスコットキャラクターがありました。「小値賀」は、なかなか「おぢか」とは読めないで、「牡鹿」のキャラにしたのでしょうか。



ターミナル内には、男女別の仮眠室がありました。「太古」の下り便が朝早くに着くため、公共交通機関が動き出すまで休憩ができるための施設です。



7時に小値賀港を出港した「いのり」は、宇久平港に向かいました。



宇久平港への入港です。



宇久港をでると、一路、佐世保に向けて針路をとります。僚船「フェリーなみじ」が遠くを反航しました。



佐世保沖では自衛艦がゆっくりと周回警備をしています。



佐世保港の入口です。



左舷に高後崎灯台が見えました。



右舷には寄船の集落が見えます。ここは佐世保に来たときのお気に入りのシップウォッチング・ポイントです。



西海沿岸商船の高速旅客船「れぴーど 2」と反航しました。19 総トン型アルミ船です。



佐世保重工で艤装中のバルクキャリアが見えました。名村造船の傘下に入っており、新造からは撤退との報道もあります。



佐世保港内では、米海軍軍艦と自衛艦の姿がたくさん見れました。



10時には佐世保港に到着しました。



佐世保港内に停泊する小型旅客船群です。



佐世保港に停泊する九州商船の「いのり」(左)と「シークイーン」です。



長崎空港で帰りの飛行機を待つ時間、長崎とハウステンボスへの海上アクセス船を見て過ごしました。入港する「エアポート8」です。乗客は2人だけでした。空港アクセス船もコロナ禍で大打撃を受けています。



ハウステンボスから来た「オーシャンライナー」です。